



TITLE:

手術方法ノ研究

AUTHOR(S):

---

CITATION:

手術方法ノ研究. 日本外科宝函 1936, 13(4): 555-556

ISSUE DATE:

1936-07-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205636>

RIGHT:

## 手術方法ノ研究

### 理想的肛門直腸遊離法(遊離筒使用)

庄 山 省 三 (京都外科集談會昭和11年4月例會所演)

直腸癌ノ手術デ會陰部ヨリ直腸ヲ遊離スルタメニハ先ヅ「キンチャク」縫合ニヨツテ肛門閉鎖ヲ行フノガ正規ノ仕方デアル。併シ此ノ閉鎖ハ全ク無菌のデハナイ、マタ決シテ完全デハナイ。手術中ニ種々ナル不快ノ出來事ガ起リ得ルノハ誰モ經驗スル所デアル。

ソコデ自分等ハカ、ル際ノ肛門ノ處置ニ就テ1ツノ新シイ方法ヲ考案シタ。即チ1個ノ筒ヲ肛門内ヘ填裝スルコトニヨツテ、肛門ヲ氣密性ニ閉鎖シ且ツ此ノ筒ヲ通ジテ「ゴム」袋ヲ隔テ、肛門内ヘ指ヲ挿入スルコトニヨツテ直腸壁ヲ内外兩側ヨリ觸診シ乍ラ遊離ヲ行フ所ノ方法デアル。此ノ方法ヲ吾々ハ『理想的肛門直腸遊離法』ト名ヅケ、此ノ際使用スル筒ヲ『遊離筒』ト名ヅケタ。

遊離筒ノ構造及ビ使用法。

遊離筒ハ其ノ一端ニ「ゴム」袋ヲ持ツタ1ツノ筒デアツテ、此ノ筒ハ「アルミニウム」或ハ「エポナイト」製デ、2ツノ部分即チ筒肛門部ト筒握リヨリ成ル(第1圖 I, II)。筒肛門部ニハ外側ニ3ヶ所ニ凹ミアリ、筒握リトハ結合分解自由デアル。

遊離筒ヲ組ミ立テルニハ、1)筒肛門部ト筒握リトヲ結合スル。2)約20cmノ糸ヲ小綿球ニ結び付ケテ此ノ綿球ヲ3枚重ネタ「コンドーム」ノ先端ヘ固定スル(第2圖 W, f<sub>1</sub>, F)。3)此ノ「コンドーム」ノ中央迄筒肛門部ヲ挿入シテ2ヶ所デ兩者ヲ固定スル(第2圖 f<sub>2</sub>, f<sub>3</sub>)。4)綿球絲ノ他端ヲ筒握リ内ヘ牽引スレバ「コンドーム」ノ先端部ハ筒内ヘ轆轉スル(第1圖 III)。カクノ如ク「コンドーム」ガ固定サレタ筒肛門部ヲ肛門内ヘ挿入填裝スルノデアル。

填裝ノ方法。

1) 肛門周圍皮下ニ1本ノ縫合絲ヲ通ジ、肛門外皮膚4ヶ所ヲ「コッヘル」氏鉗子ニテ把持牽引シテ肛門ヲ開大シ乍ラ「コンドーム」ヲ持ツタ筒肛門部(第1圖 AK)ヲ肛門内ヘ挿入シ、皮下圍繞絲ヲ結紮スル。2) 肛門周圍輪狀皮膚切開ヲ加ヘ肛門括約筋部ガ筒肛門部ヘ密着スル如ク創面ヲ2~3本ノ太キ絲ニテ結紮固定スル。3)筒肛門部ヘ固定サレタ創面ヲ覆フ如ク肛門外殘餘「コンドーム」ヲ轆轉固定スル。

以上ニヨリ筒肛門部ハ廣キ範圍ニ於テ3層ニ固定セラレ肛門ハ完全ニ密閉サレル。筒握リヲ除去スレバ填裝ハ完了サレタノデアル。

茲ニ於テ、筒肛門部ヲ通ジテ「コンドーム」ヲ隔テ、指ヲ肛門内ヘ挿入シ遊離術ヲ開始スルノデアル(第3圖參照)。

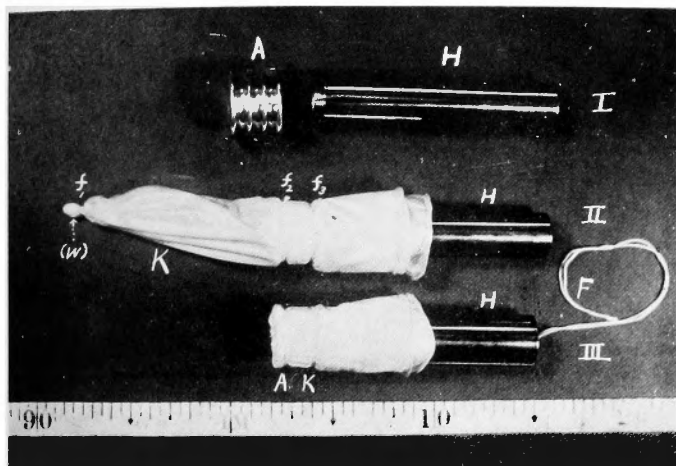
本法ノ利點

1) 肛門閉鎖ノ無菌の氣密性ガ從來ノ方法ニ比較シテヨリ完全デアルコト。

從來ノ肛門閉鎖ハ單ナル「キンチャク」縫合ニヨリテ行ハレ且ツ此ノ縫合絲ヲ手術中ニ「Halt」トシテ把持牽引スルノデ時々肛門部ノ粘膜ヲ損傷シ易イノデアルガ本法ニヨレバ閉鎖範圍ガ廣ク且ツ3層ニ密閉サレルノデ、無菌のニ完全デアルコトハ勿論、手術中ニ肛門直腸ノ損傷ヲ起シ

難イノデアル。肛門ノ直グ近イ所ニ腫瘍ノ一部或ハ全部ガ位置シテ居ルカ或ハ肛門周圍ニ化膿性炎症ガアル場合デモ此ノ筒ヲ利用スルト從來ノ仕方ヨリモ有利ニ容易ニ無菌的手術ヲ企テ得ルノデアル。

2) 肛門内ヘ指ヲ挿入スルコトガ出來ルコト。即チ之ニヨリ手術中直腸壁及ビ腫瘍ヲ内外兩側ヨリ双手的觸診ガ出來ルノデ壁ヲ穿孔セシメル虞レガ少ク遊離手術ヲ非常ニ容易ニ行ヒ得ルノデアル。



第1圖 遊離筒ノ外景

A = 筒肛門部

H = 筒握リ

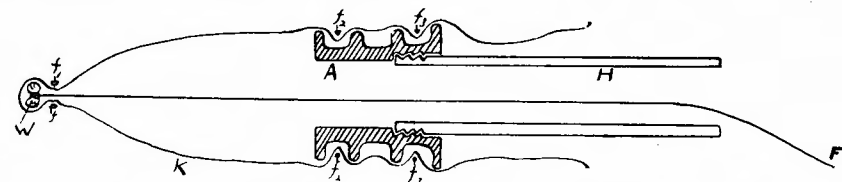
K = コンドーム

F, f<sub>1</sub>, f<sub>2</sub>, f<sub>3</sub> = 絹糸

(W) = ゴム内小綿球, KA = ゴム袋

が固定サレタ筒肛門部

第2圖 遊離筒ノ断面圖



A = 筒肛門部

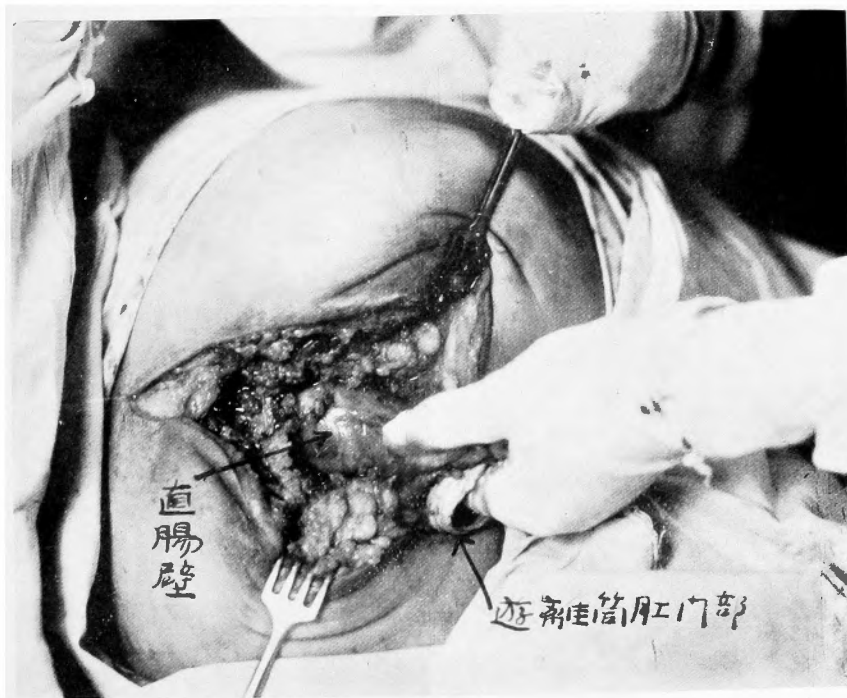
H = 筒握リ

K = コンドーム

F, f<sub>1</sub>, f<sub>2</sub>, f<sub>3</sub> = 絹糸

W = 小綿球

第3圖 理想的肛門直腸遊離術實況



肛門内へ遊離筒填装完了後左示指ヲ筒ヲ通ジゴム袋ヲ隔テ肛門内へ挿入シ直腸遊離中